

「為せば成る」

調査部 佐々木 いづみ
SASAKI IZUMI

私にとって廃棄物といえば、家畜ふんでした。大学では乳牛ふんの炭化について研究し、当時は一日中、ふんのことを考え続け、時にはフレッシュなふんに手を差し込んでかき混ぜることもあったので、今でも強烈に印象に残っています。

大学までは「家畜ふん」と「炭化」のことだけ考えていればよかったのですが、この仕事に就くからには、家畜ふん以外の廃棄物やその処理ルート、マニフェストの運用など、幅広く知識を持っていかなくてはなりません。20年以上前の調査部では法令集の内容を暗記

していたと上司から聞いた時には、私にもできるのだろうかと不安でいっぱいになりました。

それから約8カ月、現在はどうかというと、ざっくりと法令集の第何条に何が書かれているか、見当がつくようになりましたし、研修を通して業務の知識も増え、当初抱いていた不安は、いつのまにか消えていました。

廃棄物の適正処理に携わる者として、一人前にはほど遠く、まだまだ学ぶことは多いですが、これからも一歩ずつ成長していきたいと思います。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

本誌では、環境省環境再生・資源循環局の森山局長、同局廃棄物規制課の神谷課長より年頭のご挨拶をお寄せいただきました。

JWセンター「事業報告」では、コロナ禍における電子マニフェスト情報と経済活動との関連性、および今後の有用性を考察しています。また、PC等がない方を対象に新たに、会場で講義ビデオを見る暫定講習会の開催をご案内しております。

「調査報告」では、業種別事例集の一部として、化学工業を対象にしたヒアリング調査を実施し、委託処理における具体的な取組事例を紹介しております。

「行政のうごき」では、環境省廃棄物適正処理推進課、廃棄物規制課より「廃棄物に関する新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」

について、その概要を取りまとめでいただき、また、「神奈川県プラスチックごみ対策について」と題し、神奈川県庁資源循環推進課よりご執筆いただきました。

「電子マニフェスト情報/ユーザー事例紹介」では(株)みずほ銀行ファシリティマネジメント部より、導入に至るプロセスについてご紹介いただき、本社・支店等をまとめて導入する場合に参考となる内容となっています。

最後になりましたが、本誌の発行に際し、ご執筆、ご協力を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。また、4回に亘り「コラム」をご執筆いただいた(株)タケエイ 三本様、「連載講義」をご執筆いただいた上智大学 北村教授に重ねて御礼を申し上げます。

本年も産業廃棄物の適正処理、循環型社会の形成に向けた情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。(広報室)

■本誌に関する連絡先:総務広報室(e-mail:jigy@jwnet.or.jp)

〈アンケートへのご協力のお願ひ〉

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下のURL)に掲載しています。本誌に関するご意見。ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JWセンター情報(季刊)VOL.20 NO.4 発行日:2021年1月15日発行 発行人:関 荘一郎

発行所:公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階

TEL:03-5275-7111 FAX:03-5275-7112 <https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷:株式会社文洋社